



# 飯田市歴研ニュース

News Letter

No. 72

The Iida City Institute  
of Historical Research

2014年10月1日 発行

飯田市歴史研究所

〒395-0002

長野県飯田市上郷飯沼3145

TEL 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

E-mail iihr@city.iida.nagano.jp



## 第12回飯田市地域史研究集会を開催しました

8月23日（土）・24日（日）に、第12回飯田市地域史研究集会を開催しました。1日目の来場者数は約130名、2日目は約50名と、市内はもとより、市外や県外含めた皆様にご参加いただきました。研究所設立以来10年間の蓄積を踏まえ、今後とも聞き取りによる口述資料を、地域にとって重要な遺産として保存し、活用していきたいと考えています。

### 特集 記憶と経験を語り継ぐこと —地域遺産としての「口述資料」—

今回の地域史研究集会では「オーラルヒストリー」という方法に焦点をあてて、その成果である口述資料をいかにして後の世代に引き継ぐか、また引き受ける世代にとっての課題とは何か検討することを目的としました。

基調講演として岩手大学の今野日出晴教授からは、長崎県の被爆者に取材を行ったジャーナリスト伊藤明彦氏の残した聞き取り資料群を素材に、口述資料の持つ個性について多面的に検討した成果についてご講演をいただきました。続いて沖縄県の久部良和子氏からは、沖縄戦をめぐる聞き取り、映像資料を基にして、教育の現場で教員や生徒がいかにして歴史を学んでゆくのか、その実践についての報告をいただきました。満州移民を考える会の齊藤俊江氏からは10年以上に及ぶ飯田・下伊那での聞き取り活動を総括し、現状と課題についてのお話をいただきました。地域との連携として、飯田女子短期大学で福祉を学ぶ学生3名から、授業の中で行った聞き取りを通じて、自分たちがクラス討論をもとにどのように考えたかを発表してもらいました。最後に、飯田市歴史研究所の安岡健一研究員が、飯田市歴史研究所における口述資料の現状と今後のオーラルヒストリー調査の課題

と展望を述べ、共同研究への参加を呼びかけました。

これらの講演・報告に基づいて、信州大学人文学部の大串潤児准教授の司会により、パネルディスカッションを行い、その後、会場とのあいだで活発な議論を行いました。

一連の特集に併せて、会場の廊下では「『聞き書き』を聞き取る」と題したパネル展示を行いました。本島和人調査研究員の研究に基づき、県内各地の12に及ぶ聞き取りの取り組みが紹介され、その多様性が視覚的に示されました。

2日目には3本の報告と資料紹介を行いました。平成8年に「農村記録写真の村宣言」をした阿智村の林茂伸氏が、日本を代表する農村写真のコレクションである、同村所有の熊谷元一写真の保存と活用について報告されました。また飯田市歴史研究所の千葉拓真研究員からは、明治時代に行われた江戸時代に関する聞き取りの事例を紹介し、伊坪達郎調査研究員からは、飯田・下伊那地域における共有文書の保存の実態について報告しました。最後に、森本昭夫氏所蔵の映像資料として三六災害時の飯田線界隈の動画を紹介しました。映像もまた、地域の姿を伝える貴重な資料であり、今後の保存に向けた取り組みが必要です。以上2日間の成果は今後の原稿執筆と編集を経て、来年発行する年報に掲載される予定です。



パネルディスカッションの様子

講演「『被爆者の声』、その力—『口述資料』と文書資料—」  
岩手大学 今野日出晴氏報告「沖縄戦証言記録の学校教材化への取組み  
—『創造』される歴史—」  
沖縄県文化観光スポーツ部 久部良和子氏

パネル展示の様子

# 飯田歴研賞2014 受賞者コメント

歴研賞 飯田中学校工場再現文集刊行合同幹事会 編

著書部門 『中学校が軍需工場になった』

長野県飯田中学校生徒たちの昭和20年(1945)春夏』



2014年度歴研賞 著書部門の受賞に心からのお礼を申し上げます。

過ぎ去っていく時代と事物、過去という怪物、校舎が軍需工場になった「異様な時代の体験」を、①「回顧文集」とどめず、②『母校史』の補完、③学徒動員を体験した全学年生徒の綴る新旧稿の取り込み、④そこに至る国情、国勢を示す記録を挿入して、「当時を再現する」形に整えられました。老齢八十路の編集子10人が気概を込めた「私たちの書籍」編纂の「綿密な検証、実証的な面」をご評価いただけたことを大変嬉しくありがとうございます。この機会に、多くの読者が「本書の構成」にお寄せくださる関心大なるを念願しております。

(飯田中学校工場再現文集刊行合同幹事会 広報担当 松本敬司さん)



## 奨励賞

慈光

学校法人 高松学園  
認定こども園 慈光幼稚園

『慈光幼稚園百年史  
おさなごとともに歩んだ百年』



この度は、はからずも歴研賞奨励賞受賞に教職員一同大変嬉しく思っております。当園創立100周年を機に、これまでの歩みの記録と記憶を整理し、後世に残したいと取り組んだものです。これを編む時、単なるエピソードや事実を羅列したものではなく、慈光幼稚園が国や社会の動きと、また地域の方々の生活や文化とどう繋がりあってきたのかを解き明かしたいという思いがありました。出来上がってみると、歴史を尋ねることは、今後の在り方を探すことであると再認識いたしましたところです。

(慈光幼稚園 園長 高松和子さん)

## 奨励賞

上山区史編纂委員会 編

『上山区史』



全く思っていなかつた賞を頂き編纂委員一同大変喜んでいます。ありがとうございました。



初めは上山区誌を作ろうと「区誌」を使っていましたが、編纂したところ内容的に「区史」の方が適当ではないかと「上山区史」と名付けました。

15年の歳月を費やしやっと出来た「上山区史」を「本棚の飾りが出来た」で終わる事なく、この区史の活用、内容を知つてもらう活動が必要だと思っています。すでに「上山区民セミナー」、高齢者クラブ、小学生の「夏休み宿題やらまい会」などでも学習会が行われ、区民セミナーには130人余りも参加してくれました。また、今後は歴史に関心のある人達による研究会を作り、さらに内容を深めたいと考えています。

(上山区史編纂委員会 鈴木順三さん)



## 歴史研究所協議会を開催しました

7月29日、第1回歴史研究所協議会を開催しました。

飯田市歴史研究所第3期中期計画に基づき、市民との協働による調査・学習活動の推進を目的に、地域の研究者をはじめとした市民の皆さんからご意見を聞く協議会を、今年度から設置しました。

第1回の協議会では、飯田・下伊那地域の研究団体の代表者を始めとした7名の方に委員をお願いしました。協議会長には下平隆司さん(伊那谷研究団体協議会)、副会長には今村嘉孝さん(公民館長会)が選出されました。委員の任期は2年間です。

歴史研究所内を観察後、第3期中期計画と今年度の事業概要について説明させていただき、今後の歴史研究所の活動等について、多くのご意見をいただきました。協議会は年に2回程度開催を予定しています。

## 美博まつり★建物の模型をつくろう

8月2日・3日の美博まつりでは、歴史研究所恒例の出し物として、小中学生を対象とした、飯田・下伊那地域を代表する伝統的な建造物のペーパー模型をつくるコーナーが設けられました。今年は参加者数を制限して行われたのにもかかわらず、常にテーブルがいっぱいになる盛況ぶりでした。子どもたちに最も人気があった模型は、この地域に馴染みの深い本棟造りの竹ノ内家で、難易度の高い麻績学校も熱心な子どもたちが製作に取り組みました。普段カッターを使いなれない子どもたちが、道具の使い方について説明するスタッフの言葉に真剣に耳を傾ける姿が見られました。



まさなり  
旧川路村青年学校教師 今村正業氏への軍事郵便

～情況や心情を伝える70年前の兵士の便り～

資料整理担当 上河内 陽子

歴史研究所では、川路まちづくり委員会と協力し、旧川路村の青年学校教師今村正業氏（1902～1985）宛の軍事郵便の整理をいたしました。1937～1945（昭和12～20）年にかけて書かれた全1013通の便りの送り主は中国大陆などの戦地に渡った教え子の兵士など194人からのものです。その1通1通から見えてきたのは、兵士が見た生々しい戦争だけでなく、遠くはなれた故郷・川路村の仲間と情報を共有しつながり、心の支えとしていた姿です。

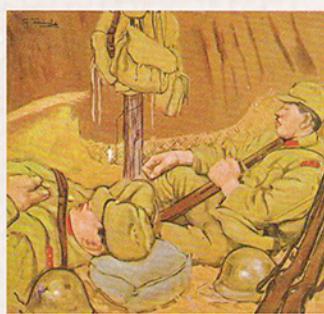


## ■十三夜の月光の下で故郷を想う

75年前の1939（昭和14）年10月、中国大陆で、十三夜の月光を浴びながら遠くの故郷を想って手紙を書いていた人がいました。川路村出身の兵士Aさんです。手紙には、月の風景描写とともに、今村正業先生の便りで初めて所在を知った同郷の仲間と現地で歓談できたという、歓喜と感謝がしたためられています（右参照）。無限の遠方にある月光の青白い光は、「人の心に一種の憧憬と郷愁を呼び起す」と、萩原朔太郎は隨筆「月の詩情」で述べましたが、戦場で、漆黒の闇に輝く大きな月を見て、Aさんのように故郷を想起し、帰還を切望し胸を熱くした兵士は無数にいたのではないでしょうか。

同じ1939年秋、中国に出征していた川路村出身の兵士Bさんの手紙からは、奇しくもAさんと同じ十三夜の月を見ていたことが分かります。

「砲弾で屋根も壁も穴だらけ（中略）、家の中にいながら大陸特有の蒼白い光を放つて十三夜の月見が出来るのです。草やわらを集めて敷きそのままごろ寝をして、昼間行軍の疲労と苦熱で蚊等の襲撃も平気で戦友たちはぐっすり眠り楽しい夢路を辿っています」



十三夜（旧暦9月13日）の月。1943（昭和18）年には流行歌「十三夜」（小笠原美都子・ティチクレコード）が発売され、その後も盛んに「十三夜」が曲名に使われるなど、戦中戦後は十五夜より馴染みがあったことが想像できます。

ちなみに、今年の十三夜は10月6日です。

Aさんからの便り  
(1939年10月24日付・左)と  
その読み下し文(下)

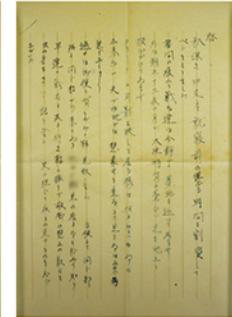
(読み下し文)

秋深き中支にて就寝前の僅かな時間を割愛してペンを  
とりました。

昼間の疲れで戦友達は今静かな夢路を辿っています。  
外は朔北十三夜の月が大陸特有の蒼白い光を地上に

投げかけています。

クリークに月影を映している様は何に例える事も出来  
ない。先ず内地では想像する程度にて見る事は出来得  
ないであります。



(手紙からの抜粋は漢字・仮名遣いを読みやすいように変換しています)

過日はお便り有りがたく拝見致しました。当便にて同じ部隊に同じ村から来ている〇〇君のいる事を初めて知り早速に戦友と共に行き暫くぶりで故郷の想出の数々を虫の音をききつ語りあい笑い興じて夜の更けるのを知らなかつた。その気持は礼状に何と書き表して良きものか無能なる自分には書き表すことが出来ない。

その後、故郷からの懐かしい便りをもらって喜ぶ様子を、おやつをもらって飛びあがって喜ぶ子どもに例えるなど、故郷の便りへの思いや郷愁を切々と表現しています。

## ■悲しい結末のやりとりも軍事郵便で

この純粹な若人Bさんを待っていた運命は3年後のビルマでの戦病死でした。川路村ではBさんの村葬が行われました。その後、村の青年団宛に届いたのは、これもまた中国に出征していたBさんの兄からの「村葬の儀ご執行下さり小兵はもとより英靈もさぞかし本懐と草葉の陰より皆様のご厚志に感涙いたしむる事」との謝辞と、「今少し生を長らえご奉公致させたく兄としての愚考ご推察くだ

されたく候」との悲痛な心を書き送ったハガキでした。

「今村正業氏宛戦時期郵便資料」からは、郷里の仲間のつながりが重要な情報網となって、戦地や村の様子から兵士の所在・安否までを共有していたことが分かります。70数年前の便りは時空を超えて戦争や当時の辛い情報を伝えるばかりでなく、戦争体験のない世代が先人の心情の一端に身近に寄り添うことができ、整理しながら目頭を熱くしたのは一度や二度ではありませんでした。

資料提供に際して今村正業さんご親族、川路まちづくり委員会の皆様に心から感謝申し上げます。



今村 正業 (1902 ~ 1985)

安城農林学校を首席で卒業。1920~1944年まで旧川路村の小学校・青年学校の教員を務めた。その後、農業協同組合長、飯田市との合併の時の川路村長、飯田病院理事長を歴任した。

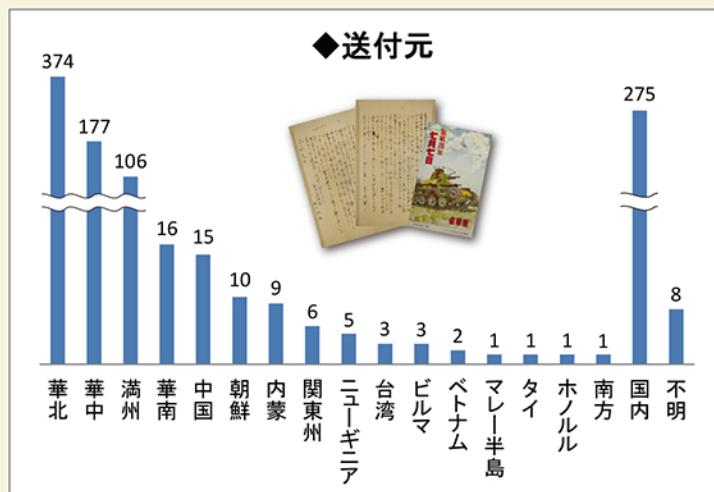
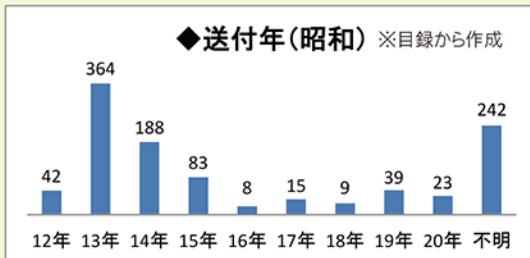
(写真:『飯田病院100周年記念誌』より)

※資料公開については現在調整中です。

※すべての郵便は歴史研究所でデータ保存されたのち、川路まちづくり委員会から、送り主のご遺族の元へと還されています。

#### 【今村正業氏宛戦時期郵便資料データ】

- 生徒や学校の同僚など 194名から 1013通の手紙
- 少ない人は1通、多い人は49通
- 内訳: 軍事郵便 901通(内検閲印のみ 170、軍艦郵便 1)  
普通郵便 111通、電報 1通
- 形態: ハガキ 728通、封書 284通、電報 1通



## わが町の 建築史ゼミ

10月30日(木)より開講

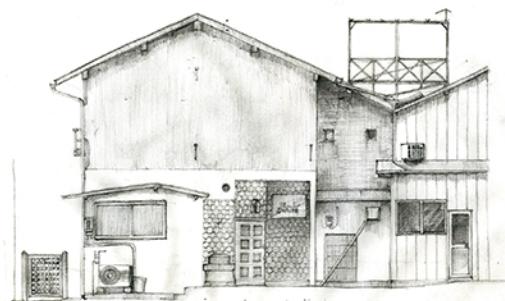
担当: 樋口 貴彦 (研究員)

日時: 毎月第2・4木曜日

18:30~20:00

場所: 歴史研究所 研修室

(旧飯田測候所で行う回もあります)



普段、私たちは自分の生活している家庭の住環境や家周辺の建物や毎日通り過ぎる街並みや集落の景観をどれだけ意識して心にとめているでしょうか? また身の回りには心地よい、誇らしい、気になる、愛着が持てる場所はあるでしょうか? 現在、歴史的に形成されていた景観を地域の財産として見直す動きが世界的に広まりつつありますが、地域の人々が自らの生活の場を自覚し、そこに生活を積み重ねてこそ、生き生きとした魅力的な景観になるのではないでしょうか。

建築文化や景観はそこに重ねられた人々の活動の痕跡と、生活の中で形づくられた自然環境との関わり方を示し、また同時に地域に住む人々の意識が表出したものとしてとらえることができます。このゼミでは、まちづくり活動や地域史、自分史の編纂活動に関わる皆さん等を対象に生活圏の日常的な景観の過去や現在を振り返る場を設けながら、それを写真や地図、スケッチ、実測図などを作成しながら記述するスキルを習得していただきます。そして自らがテーマとして選んだ身近な景観を、個々人のねらいや場所の特性に適した方法で記述しつつ、土地の利用方法や建築の形態や材料やそれらの扱い方に着目し、多様なランドスケープに立地する飯田・下伊那地域の文化的景観の特性を掘り下げたいと思います。

(樋口 貴彦)

参加のお申し込み・詳細については歴史研究所までお問い合わせください。

# 飯田アカデミア第72講座

## 連合国軍(米軍)の日本占領 —地方軍政部隊と長野県を中心として—

10月4日 土

第1講 13:30~15:00  
第2講 15:20~16:50

- ① 長野県政部隊の活動と南信地域
- ② 長野師範学校(男子部)とケリー旋風

10月5日 日

第3講 10:00~11:30  
第4講 13:00~14:30

- ③ 長野空襲と日本の敗戦
- ④ 連合国軍の日本占領と地域史研究

あら たかし

講 師：荒 敬 さん（長野県短期大学名誉教授）

1949年 東京都生まれ。研究テーマ：「現代日本の政治と社会」  
著書：『日本占領史研究序説』（1994、柏書房）

『警察改革と治安政策 GHQ日本占領史15』（翻訳書）（2000、日本図書センター）ほか

会 場：りんご庁舎 3階会議室（飯田市本町1丁目15）

受講料：500円（2日間共通資料代）

※1日のみ、または1講義のみでもご参加いただけます。

※受講をご希望の方は歴史研究所までお申し込みください。

## 定例研究会

開催日：10月25日 土

テーマ：

「蚕糸業の展開と流通の変化  
—伊那郡鳴田村を中心に—」

報告者：伊坪 達郎（調査研究員）

開催日：11月15日 土

テーマ：

「地方における自治思想の形成  
—明治期松尾小学校の自治教育」

報告者：栗谷 真寿美（市民研究員）

いずれも 時 間：14:00~16:00

場 所：歴史研究所 研修室

※定例研究会はすべて公開で行っています。  
どなたでもご参加いただけます。

## 地域史講座

### 史料からよみとく 江戸時代の長久寺 —飯田藩との関係をさぐる—

長久寺は、江戸時代には飯田藩の藩主であつた堀家の菩提寺として同家との関係が深く、飯田藩による寺院支配の中でも重要な地位にありました。本講座では、地引絵図の実物を展示しながら、江戸時代の上飯田に存在した寺院について、飯田藩と長久寺の関係を主な素材としてさぐっていきたいと思います。

開催日：11月8日 土

時 間：13:30~15:00

講 師：千葉 拓真（研究員）

会 場：東野公民館 大会議室

（飯田市宮の前4398-2）

## ワークショップ

### 交差する日本近世史

12月7日 日 9:30~14:30

会 場：りんご庁舎 3階会議室（飯田市本町1丁目15）

※参加をご希望の方は、事前に歴史研究所までお申し込みください。



2006年以来継続してきた日仏の近世史研究者による研究交流の大きな成果である『思想』2014年8月号を素材として、身分、社会、集団、所有などの論点をめぐり、日本近世史研究が今何を取り組むべきかを議論します。

ギヨーム・カレ氏を始め、『思想』に論考を掲載した、高澤紀恵（国際基督教大学）、塙田孝（大阪市立大学）、森下徹（山口大学）、吉田ゆり子（東京外国语大学）、吉田伸之（飯田市歴史研究所）の各氏が参加します。

## 受講生募集

スタッフとともに  
歴史を学んでみませんか。  
場所：歴史研究所 研修室

### New 建築史ゼミ

10月30日  
11月13日・27日  
18:30~20:00

担当：樋口貴彦（研究員）

### 近世史ゼミ

10月7日・21日  
11月4日・18日  
19:00~20:40

担当：千葉拓真（研究員）

### 自分史ゼミ

10月25日  
11月8日・22日  
13:30~15:00

担当：安岡健一（研究員）

### 近現代史ゼミ

10月11日・25日  
11月15日・29日  
17:00~18:40

担当：田中雅孝（調査研究員）

### 思想史ワークショップ

10月1日・15日  
11月5日・19日  
19:00~20:40

市民の皆さんのが自主的に学び合う場

10月開講の建築史ゼミのお申し込みを受付けています。詳細は歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

## 歴史研究所催事スケジュール

2014年 10月

2014年 11月

NL72発行／思想史ワークショップ 水	1	満州移民研究ゼミ 土
木	2	日
金	3	月
飯田アカデミア①／満州移民研究ゼミ 土	4	火
飯田アカデミア② 日	5	水
木	6	木
近世史ゼミ 火	7	金
水	8	地域史講座／古文書入門講座 自分史ゼミ 土
木	9	日
金	10	月
古文書入門講座／近現代史ゼミ 土	11	火
日	12	水
木	13	木
火	14	金
思想史ワークショップ 水	15	定例研究会／近現代史ゼミ 土
木	16	日
金	17	月
土	18	火
日	19	水
木	20	木
近世史ゼミ 火	21	金
水	22	古文書入門講座／自分史ゼミ 土
木	23	日
金	24	月
定例研究会／古文書入門講座 土 自分史ゼミ／近現代史ゼミ	25	火
日	26	水
木	27	木
火	28	金
水	29	近現代史ゼミ 土
木	30	日
金	31	

開所時間：午前9時～午後5時

休 所 曜日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日 休所日

## 歴研日誌

8月

- 1日…歴研ニュース71号発行
- 2日…満州移民研究ゼミ 第39回「宮下功『満洲紀行』を読む(38)」
- 2・3日…美博まつり「建物の模型をつくろう」(飯田市美術博物館)
- 3日…出前講座 下伊那社会科教育研究会夏季研修会「飯田下伊那と満蒙開拓」(本島調査研究員)(満蒙開拓平和記念館・旭ヶ丘中学校)
- 3・5日…学校調査(多和田真理子調査研究員)(追手町小学校・座光寺小学校)
- 5日…歴史に学び地域をたずねる会 座光寺地区史料整理(麻績史料館)
- 5日…近世史ゼミ「小笠原家文書を読む⑦」
- 6日…思想史ワークショップ「矢内原忠雄『戦の後』」
- 9日…古文書入門講座 第2回「漢数字を読む②」
- 9日…自分史ゼミ 第9回「前期概略」
- 9日…近現代史ゼミ「文献講読・聞き書き調査報告」
- 19日…歴史に学び地域をたずねる会 座光寺地区史料整理(麻績史料館)
- 19日…近世史ゼミ「小笠原家文書を読む⑧」
- 20日…思想史ワークショップ「丸山真男『近代的思惟』」
- 21日…一橋大学・韓国大学研究者視察受け入れ
- 23・24日 第12回飯田市地域史研究集会  
「記憶と経験を語り継ぐこと—地域遺産としての「口述資料」—」(飯田市公民館)
- 25・26日 飯田市南信濃 佐藤光弘家調査  
(吉田所長・吉田ゆり子顧問研究員・千葉研究員・樋口研究員・伊坪調査研究員)
- 26・27日 上伊那企業調査(本島調査研究員)
- 30日…飯田市竜丘長野原区 古文書整理協力(伊坪調査研究員)

9月

- 1・5日…学校調査(多和田真理子調査研究員・本島調査研究員)  
(追手町小学校・座光寺小学校・飯田東中学校)
- 1・5日…アーカイブズ研修I(千葉研究員)(国立公文書館)
- 3日…思想史ワークショップ「小倉金之助『自然学者の反省』①」
- 6日…満州移民研究ゼミ 40回「宮下功『満洲紀行』を読む(39)」
- 6・8日…阿智村清内路調査(吉田所長・千葉研究員)
- 7日…第8回「清内路・歴史と文化」講座報告  
「清内路村報と満州移民の時代」(本島調査研究員)
- 9日…近世史ゼミ「小笠原家文書を読む⑨」
- 10日…長野県地域史資料データベース構築打ち合わせ(伊坪調査研究員)  
(飯田市立中央図書館)
- 13日…古文書入門講座 第3回「人名・村名を読む①」
- 13日…近現代史ゼミ「聞き書き調査報告」
- 16日…上郷小学校5年4組 総合的な学習 フィールドワーク協力(伊坪調査研究員)
- 16日…歴史に学び地域をたずねる会 座光寺地区史料整理(麻績史料館)
- 16日…近世史ゼミ「小笠原家文書を読む⑩」
- 17日…思想史ワークショップ「小倉金之助『自然学者の反省』②」
- 18日…鼎一色区有文書調査(本島調査研究員・伊坪調査研究員)
- 20日…定例研究会「山地の建築文化」(樋口研究員)
- 20日…出前講座 鼎歴史を学ぶ会学習会「幕末情勢の変化と村々の負担」(伊坪調査研究員)(鼎公民館)
- 27日…古文書入門講座 第3回「人名・村名を読む①」
- 27日…自分史ゼミ 第10回「目次の提出」
- 27日…近現代史ゼミ「文献講読」